2022 年度 (令和 4 年度)

入間市生涯学習をすすめる市民の会 活動報告書



令和5年4月

入間市生涯学習をすすめる市民の会 https://irumanabito.net/

目 次

はじめに	1
1. 活動目標と事業内容	2
2. 各部会・プロジェクトの活動内容とまとめ	3
<企画・講座部会>	3
<広報部会>	7
<生涯学習フェスティバルプロジェクト>	11
<視察研修プロジェクト>	14
3. 収支決算と年間スケジュール	
収支決算	19
年間スケジュール	20
tp すび	22

はじめに

入間市生涯学習をすすめる市民の会(略称:市民の会)は、市民の生涯にわたる学習活動支援を目指して1995年(平成7年)5月に設立されました。以来、入間市のだれもが生涯にわたって、いつでも、どこでも学ぶことができ、学んだことを暮らしや地域に活かすことのできるまちづくりを推進してきました。2020年春からの新型コロナの影響を受け、本年度も私たちの活動が一部制約を受けることとなりました。

昨年度全てオンライン開催となった生涯学習フェスティバルは、今年度は小規模な対面型でのオープニングイベントと1か月に及ぶオンライン開催と2つの形態で実施することとしました。まず、12月4日にオープニングイベントを産文センターで実施し、ホールでは開会式に引き続きチアダンス、民謡、クラシック音楽の演奏、そして2階集会室では11団体の展示を行いました。参加者数は281人でした。

引き続き、12 月 11 日から 1 か月間のオンライン開催では 29 団体参加し、総数 1568 回のビデオ閲覧がありました。

11 年目を迎えた「まちの先生講座」は、仲間づくりを狙って拡張型/コラボ型での講座に限定しました。その結果、実施講座数 9 (前年度 27 講座)、延べ受講者数 356 名 (前年度 493 名) と、講座数および延べ受講生数共に昨年度より減少しました。その一方で、9 つの講座終了後に 3 つのサークルができ、当初目的の仲間づくりを促進することができました。

広報関連では、地域の学習情報冊子「いるま学びの場」を発行しました。Web サイト「いるまなびと」では昨年度に引き続き生涯学習フェスティバルのオンライン団体展示を行い、団体の情報発信を支援しました。市内 10 か所の「生涯学習けいじばん」の運営/保守を行い、市民への情報発信を行いました。3 月には私たちの活動紹介「生涯楽習通信」を発行しました。

昨年度は実施を断念した視察研修は、今年度はコロナ禍の影響を受けないオンラインで実施することとしました。オンライン訪問先は、数多くの講座を実施している「茨木市生涯学習センターきらめき」。 視察当日は 1 時間半のオンライン会議で質疑を行うと共に、センター内を持ち歩きスマホで中継していただきセンターの様子をリモートで把握することができました。対面型と比べて制約の多いオンライン視察でしたが、実施してみて期待以上の成果を得ることができました。

1. 活動目標と事業内容

<企画・講座部会>

*活動目標・・・生涯学習に関する共通的な仕組みづくり

*事業内容・・・10年の実績を踏まえ「まちの先生講座」を発展させて運営

・・・庁内の関連部署及び公民館、地域の団体・企業等との連携推進

・・・生涯学習を推進する「学びのしくみづくり」の企画・具体化

<広報部会>

*活動目標・・・生涯学習活動に関する支援

・・・生涯学習に関する情報発信

・・・市民の会の活動PR

*事業内容・・・「学びの場」の発行

・・・エフエム茶笛との連携による効果的な広報活動

・・・生涯学習けいじばんのPR&利用促進活動及びメンテナンス

・・・ホームページ及びメールマガジンによる活動内容のPR

・・・情報紙「生涯楽習通信」の発行

・・・生涯学習フェスティバルにおける「市民の会」PR(展示物他)

・・・内部研修の実施

<生涯学習フェスティバルプロジェクト>

*活動目標・・・市民と行政の協働により生涯学習フェスティバルの事業企画立案、広報実施、 そして当日運営を推進する

*事業内容・・・実行委員会への参画と、それを通じた企画ほか運営に関する当会の意見反映

・・・より新たな生涯学習フェスティバルとするための具体的提言立案への取組み

・・・生涯学習フェスティバル運営やその他に関する主催団体としての方針の立案

<視察研修プロジェクト>

*活動目標・・・生涯学習先進地の視察

*事業内容・・・入間市の生涯学習事業発展のための先進地視察



2. 各部会・プロジェクトの活動内容とまとめ

<企画・講座部会>

部 会 長: 関谷

部会委員:青地、佐藤、長崎、土屋、山増、渡部

*活動目標

『生涯学習に関する共通的な仕組みづくり』

*事業内容

- ◎10年目の実績を踏まえ「まちの先生講座」を発展させて運営
- ◎庁内の関連部署及び公民館、地域の団体/企業等との連携推進
- ◎生涯学習を推進する「学びのしくみづくり」の企画・具体化

*活動実績

- ◎11 年目を迎えた市民講座「まちの先生講座」の継続・拡張型・コラボ型講座運営 重点項目:
 - ✓ コロナ禍での講座の実施
 - ✓ 拡張型講座の取り組みに重点(10月半ば~2月初)
 - ✓ 仲間づくりを目指したコラボ型講座の運営

【実施概要】

参 加 者 数:356 人(延べ) ※昨年度:493 人(延べ)

実施講座数:9講座(講師10人)

※募集は19講座、うち10講座が定員未満で開講に至らず

実施コマ数:総コマ数 64 コマ (昨年 67 コマ)

拡張型:58 コマ(8 講座、昨年3) コラボ型:6 コマ(1 講座、昨年0)

実施期間:10月4日~2月21日(平日10時~17時の3区分の時間帯、

例外で土、日実施)

会 場:市民活動センター (イルミン)、公民館 7 か所 (扇町屋公民館、久保 稲荷公民館、東金子公民館、東藤沢公民館、西武公民館、宮寺公民館、

二本木公民館) (昨年度実施公民館:9 か所) 武蔵豊岡教会、ジョン

ソンタウン

スタッフ:延べ5人、市民の会委員、市民の会協力委員、まちの先生、事務局

【参加者の声・まちの先生の声】

◇参加者の声(抜粋)



- ・入間の歴史を知ることができました。ジョンソンタウン・豊岡教会・石川製糸。子 供にも伝えたい
- ・初心者が興味を持って作句できるよう丁寧に教えていただきました
- ・詩吟の声出しで元気をもらった
- ・足のことを少し知ることができました。教えていただいたマッサージを続けていき たい
- ・資格の講座もチャレンジしてみたい
- ・回ごとに課題の予習復習のテーマを頂いて家でもしっかり文章を作る練習ができま した

◇まちの先生の声(抜粋)

- ・コマ数を倍に拡大しましたが、緩慢にならず皆さん、実に熱心に講座を聴いてくだ さいました。感謝です。保険料は市民の会から補填できないか
- ・時間 (3 時間) も十分にとれて大変に良かったと思います。事務局から何かとアシスト、ご配慮をいただきました。2 名の受講生が継続希望
- ・やはり 1 人でスクリーン、プロジェクター、PC、机の配置等を準備するのは最低 30 分かかりました
- ・途中、病気になられた方もおり、全員が完走になりませんでしたが、上手になろう と積極的に参加していただきました
- ・受講生のモチベーション維持が必要と感じた。一方通行にならないように4回目以 降は会話しながらすすめることができた
- ・公民館での準備時間を充分に取っていただき感謝。今回はスクリーン、ホワイトボード等が快適に使用でき有難かった。
- ・参加者の皆さん大変勉強熱心で、教える側も手応えあり。英会話の全 8 コマは適切な回数だと思います。

【まちの先生講座の様子】



▲未経験者 OK!心と体をほぐす セルフケア&ヨガ



▲俳句「句会を開きましょう。」



▲ 足もみ&セルフケアを一緒に学ぶ



▲いるまの近代化、現代への道のり、 証を訪ねて

【実施講座】

分類	講座名	コマ数					
拡張型の	拡張型の講座						
	俳句「句会を開きましょう。」	6					
文化	茶道の世界 シリーズ⑪初歩の裏千家茶道	6					
	詩吟をやってみよう	9					
生活	こんな時どうする?-冠婚葬祭とおくりもの	6					
健康	足もみ&セルフケアを一緒に学ぶ	6					
() () () () () () () () () () () () () (未経験者OK!心と体をほぐすセルフケア&ヨガ	10					
技術	楽しく学ぼう Excel 中級講座	7					
語学	レベルアップを目指して、楽しく英会話!	8					
コラボ講	コラボ講座						
地域	いるまの近代化、現代への道のり、証を訪ねて	6					

◎「まちの先生交流会」の実施

全ての講座終了後「まちの先生交流会」をハイブリッド方式で実施した。

日時:令和5年3月2日(木)午後4時~5時半 @イルミン活動室1、参加者の 自宅など。

参加人数:36名

【内訳】まちの先生:オンサイト 24名、オンライン 2名

市民の会:7名 事務局:3名

- (1) 令和4年度で11年目となる「まちの先生講座」実施報告および総括(成果と課題)、令和5年度の方針と解決すべき課題の共有・次年度の具体的な流れを説明した。
- (2) まちの先生スタッフの役割: 当日の運営について運営マニュアルを元に共有まちの先生同士からの質問や意見交換
- (3) SNS の積極的活用について説明した。





◎庁内の関連部署及び公民館等、地域の団体/企業等との連携推進

公民館の館長会議で時間をいただき「まちの先生講座」開催について協力を依頼した。

- ◎オンライン活用を含めた学びの仕組みづくりの具体化
 - (1) いるまなびとサイトの構築・運営・いるまなびと登録促進 ※メール登録者 242 人 (昨年より 13 人増)、

郵送登録者 299 人(昨年より 2 人減)(令和5年3月現在)

活動内容:宣伝チラシ、まちの先生講座での登録呼びかけ、サイト登録

- (2) メルマガの発信(月1回)
- (3) まちの先生登録推進

活動内容:サイト登録、広報いるま(5/1号)での発信

【来年度の課題】

- ○「まちの先生講座」12年目、軽量で運営できる講座を目指す
 - ・いるまなびとをつなげる講座運営
 - ・まちの先生の自主的な運営推進
 - ・オンライン講座のための研修等、新人講師へのサポート体制構築
 - ・講座の内容に合わせた単発・拡張型講座の選択運営
- ○地区センターとの連携:施設の組織変更に合わせ、理解と協力を得る努力
- ○いるまなびとの仕組みの発展・周知(SNSの積極的活用、庁内事業との連携促進)

*総括

コロナ禍3年目で行う「まちの先生講座」(11年目)は、活動に制約が残るなかでも感染拡大防止の対策を取りつつ安全に実施できた。市民の会委員の人数が減るなか、ベテランのまちの先生にスタッフとして運営参画を求め講座を実施できた。まちの先生同士をつなげて発展させるための「オンライン談話室」を実施した。

長期講座のみを行ったことで実施講座数が減ったこと、スタッフの数には大きな変化がなかったことから 2023 年度 (R5 年度) は、単発型の講座を復活させ、拡張・単発の 2 種の講座を運営し講座内容に適したコマ数での実施を目指す。講師同士のコラボによる講座も促進する。まちの先生からの運営協力を引き出す。

学ぶ市民「いるまなびと」の登録人数は、順調に増加している。市民をつなげて 学びからまちづくりへと発展させるため、SNS を積極的に活用する。学びの情報を 発信する市民の会のサイト「いるまなびと」でのまちの先生のプロフィール紹介や、 SNS での有効な発信などにより、市民の学び意欲を刺激し満足させる仕掛けを創出 する。

<広報部会>

部 会 長:佐藤

部会委員:指田・長崎・渡部・山増・青地

*活動目標

- (1)「生涯学習活動に関する支援」 事業内容の番号(1)(2)(5)
- (2)「生涯学習に関する情報発信」 事業内容の番号(3)(4)
- (3) 「市民の会の活動 PR」 事業内容の番号(3)

*事業内容

- (1)「いるま学びの場」発行
- (2)「生涯学習けいじばん」による生涯学習情報の発信及び利用促進
- (3) ホームページ及びメールマガジンによる広報活動
- (4)情報誌「生涯楽習通信」の発行(年1回)
- (5) 内部研修会の実施

*活動実積

(1)「いるま学びの場」発行

「いるま学びの場」は、市内のサークル・教室を掲載し、市民の生涯学習のきっかけをサポートするため毎年見直しを行い、発行している冊子です。サークル名・活動内容・活動日・活動場所・連絡先などが載っています。市役所、公民館等で配布しておりますので必要な方は該当の場所に申し出てください。また、市役所、公民館などにおいてありますのでご覧ください。今年度分は2022(令和4)年8月に発行しました。

(2)「生涯学習けいじばん」による生涯学習情報の発信と利用促進及び管理 生涯学習けいじばんの情報発信の内容については次ページの「けいじばん月ご とのデータ」をご覧ください。

掲示件数は昨年度344件、今年度525件(前年比153%)でした。

また、「生涯学習けいじばん」のメンテナンスについては以下のことを行いま した(「けいじばんの補修」写真を参照してください)。

- ① 屋根の塗りなおし イルミン、市民体育館前、富士見公園、新しきを知る公園、 アミーゴ前
- ② 屋根の交換 博物館前
- ③ 土台の強化 児童センター前



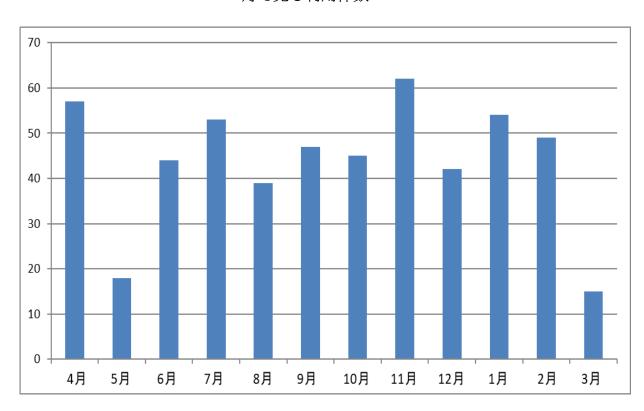
2022 (令和4) 年度 生涯学習けいじばん利用件数

(件数)

													(11 20)
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
富士見公園	6	3	5	6	4	5	5	6	4	6	6	2	58
向陽台広場	7	3	5	6	6	6	6	8	5	6	6	3	67
新しきを知る公園	5	1	4	5	3	5	4	6	3	6	5	1	48
アミーゴ	5	1	4	5	3	5	4	6	4	6	5	2	50
藤沢中央公園	7	3	5	5	4	5	5	7	5	6	6	2	60
金子駅前	5	1	4	5	3	4	4	4	4	6	5	2	47
博物館	5	1	4	5	3	4	4	6	5	6	6	1	50
イルミン	5	1	4	5	4	5	4	6	4	6	5	1	50
市民体育館	5	1	4	5	3	4	4	7	3	6	5	1	48
児童センター ※1	7	3	5	6	6	4	5	6	5				47
合 計	57	18	44	53	39	47	45	62	42	54	49	15	525

※1 児童センターは屋根改修工事のため、1月中旬から3月末まで掲示不可

月で見る利用件数



けいじばんのメンテナンス



イルミン



富士見公園



アミーゴ前



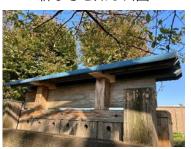
児童センター



市民体育館前



新しきを知る公園



博物館前

(3) ホームページ及びメールマガジンによる広報活動

ホームページ(https://irumanabito.net/)は継続的に更新してまいりました。今年度の生涯学習フェスティバルをオンラインとリアル開催したことにより、参加団体の活動動画をホームページに掲載しました。その団体は音楽団体7団体(4団体)、研究発表会1団体、団体活動紹介21団体(16団体)です。

()の団体は現在もホームページで見ることができます。

また、メールマガジン「いるまなびとのWA!」も毎月1日に発行し現在 242 人(前年度 229 人)のメールマガジン配信登録がされております。

(4)情報誌「生涯楽習通信」の発行(年1回)

「生涯楽習通信」Vol. 25 を令和 5 年 3 月に発行しました。第 27 回生涯学習フェスティバル「オンライン de いるまなびと」、とまちの先生の実績報告を掲載しました。

(5) 内部研修会の実施

スマホを利用した新たな講習を1回行いました。

*総括

今年度の事業については、おおむね計画通りに実施できました。

市内の掲示板の大きな検討事項は一応完了できましたので、今後のメンテナンスを続けることが大切と感じました。

来年度以後に向けて SNS 活用による学び情報発信促進が必要と思います。







<生涯学習フェスティバルプロジェクト>

PJ リーダー:山増

PJ 委員: 青地・幸森・指田・佐藤・関谷・長崎・渡部

*活動目標

市民と行政の協働により生涯学習フェスティバルの事業企画立案、広 報実施、そして当日運営を推進する。

入間市の地域で仲間と学ぶ市民「いるまなびと」の成果発表と交流の場が昨年に引き続き、コロナ感染症が収まらない中でオンライン開催とリアル開催のオープニングイベントとの二本立てで実施しました。また、

広報も Twitter・Instagram・Facebook の SNS を使い宣伝し、オープニングイベントでは生涯学習フェスティバル専用ののぼりを作成し会場内に立てました。

*事業内容

- ・実行委員会への参画と、それを通じた企画ほか運営に 関する当会の意見反映
- ・より新たな生涯学習フェスティバルとするための具体 的提言立案への取組み
- ・生涯学習フェスティバル運営やその他に関する主催団 体としての方針の立案

第27回いるま生涯学習フェスティバル

「オンライン de いるまなびと」

■日時: 令和 4 年 12 月 4 日 (日) オープニングイベント

■会場:入間市産業文化センター

■参加団体:17 団体 ■来場者数:約300人

●日時:令和4年12月11日(日)~令和5年1月15日(日)オンライン開催

●会場:特設サイト https://irumanabito.net/online2022fes/

●参加団体:29 団体

●視聴数:1,568回

*実行委員長:山増(市民の会)/副実行委員長:林田(行政職員)

*実行委員:市民の会7名 公募1名 行政職員:5名 事務局:4名

*実行委員会開催数:7回 (6/30·7/26·9/6、30·10/20·11/18·1/26)

コロナ感染症が収束しない中、実行委員会は6月末に立ち上がりました。昨年に引き続きオンライン開催でやる一方、12月にはリアル開催ができるかもという希望を持ち、感染者数をみながら9月頃に最終判断をしていこうとなりました。参加団体の参加方法もオンライン参加のみ、リアル参加のみ、どちらも参加と多様な募集をしま





した。結果リアル参加は17団体、オンライン参加は29団体、どちらも参加は11団体の方々が集まりました。リアル開催はオープニングでオンライン動画予告を放映し、再生回数アップに努めました。ホールではキッズチアダンス・民謡会・音楽家協会のトランペットの発表があり、久しぶりに大きな舞台で出来たことにモチベーションが上がったと感想をいただきました。展示会場では新たに展示物をつくり今後に活かせる、来場者と話が出来て良かった、など二本立て開催に好評価でした。

■ホールの様子





■展示会場(2階集会室)の様子



■オープニングイベント参加団体(17団体)

キッズチアダンス(Funny Girls/HAPPY CLOVER/Hopping Shower/NEO BLASTERS)・東町民謡会・入間市音楽家協会・入間市川柳連盟・青少年課放課後子供教室・入間市おもちゃ病院・入間市障害者自立支援協議会・いちの会・いるま子育て情報発信隊・MOA 健康生活ネットワーク・NPO 法人あそびあ~と☆こども劇場いるま・入間市生涯学習をすすめる市民の会・L&F クラブ・入間ジャズクラブ

●オンライン開催参加団体(29団体)

MateRio (マテリオ)・Tea Time コーラス・入間市児童センターボランティア会・The Ladies Consort・生活クラブ生活協同組合入間支部・Liebe Freunde (りぃべ ふろいんで)・楽器トーンチャイムの会・チームあいてい夢広場・入間市の文化遺産をいかす会・こうのとり・野田双子織研究会・読み聞かせボランティアどんぐり・おはなし円(まどか)・一般社団法人 言語交流研究所ヒッポファミリークラブ・入間市児童センターアイクス・NPO 法人まちづくりサポートネット元気な入間・ウォーキンジャズクラブ・土曜フォトクラブ・入間ジャズクラブ・青少年課放課後子供教室・いるま子育て情報発信隊・入間市音楽家協会・NPO 法人あそびあ~と☆こども劇場いるま・MOA健康生活ネットワーク・入間市おもちゃ病院・入間市障害者自立支援協議会・いちの会・東町民謡会・入間市生涯学習をすすめる市民の会

◎リアル開催、オンライン開催のどちらにも参加した団体(11団体)

入間ジャズクラブ・青少年課放課後子供教室・いるま子育で情報発信隊・入間市音楽 家協会・NPO 法人あそびあ~と☆こども劇場いるま・MOA 健康生活ネットワーク・入 間市おもちゃ病院・入間市障害者自立支援協議会・いちの会・東町民謡会・入間市生 涯学習をすすめる市民の会

●動画閲覧回数

	第	27回(閲覧	期間36日間])	第26回(閲覧期間14日間)			
分類	団体数	団体数 閲覧回数 1団体平均 1日平均			団体数	閲覧回数	1団体平均	1日平均
音楽会	7	603	86	2.4	9	894	99	7.1
団体紹介	21	811	39	1.1	22	877	40	2.8
研究発表	1	27	27	8.0	3	281	94	6.7
展覧会	0	-	_	-	4	373	93	6.7
実行委員	2	127	64	1.8	2	206	103	7.4
合計	31	1568	51	1.4	40	2631	66	4.7

[※]音楽会(音楽関係のサークル他)・団体紹介(活動団体他)・研究発表(お茶他)・ 展覧会(美術協会他)・実行委員(オープニングイベント)

●動画撮影方法別数

委託収録編集(有料3,000円・入間ケーブルTVが公開用に編集)	4 団体
委託編集(有料1,000円・入間ケーブルが自撮りデータを公開用に編集)	7 団体
自撮り(自分たちで公開用に編集)	8 団体
昨年の画像	12 団体

[※]昨年、動画編集を入間ケーブルと実行委員会で引き受けたが、特定の実行委員に負担がかかったので、参加団体に格安で受益者負担してもらうことにしました。

*総括

オンライン開催の場合、肖像権や曲や画像の著作権があり、つくる側、主催者側が 注意し確認しなければなりませんでした。特に事務局は対応に大変だったと思います。 その努力のおかげでサークルや団体の活動を動画でみることができ、いるまなびとサ イトでアーカイブ(保存記録)として活動の蓄積として活用され、放映期間を過ぎて からも再生されていました。今後、成果の発表の場が形を変えて進化すると思います が、リアルに会い交流する場は大事だと思いました。

<視察研修プロジェクト>

PJ リーダー: 幸森 P J 委 員: 長崎

視察日時:令和5年2月2日(木)10時00分~11時30分

視 察 先 :大阪府茨木市生涯学習センターきらめき

受講会場:入間市市民活動センター活動室3

視察目的:まちの先生事業と類似した生涯学習講座を大規模かつ広範な領域で

開催している茨木市の開催状況や運営方法等を探り、今後のまちの 先生のヒントを見つけることを目的とした。なお、今日のコロナの 感染状況等を考慮して、実験的にリモート会議による視察とした。

参加者:渡部直也、山増智子、佐藤享、関谷敦子、青地蘭子、幸森康夫(社会教育課)片寄、岩崎(全8名)

内 容 :市民活動センター活動室 3 にカメラとマイクを設定し、リモートにより茨木市生涯学習センターきらめきの会議室とを繋ぎ、会議を行った。こちらからの質問事項は事前に通知していたので、その回答をもらったうえで、再度質問するようにした。

センターの対応者は、新谷(現センター長)、佐野(担当)、久保(前センター長)

会議概要:

1. きらめき講座に関する質疑応答

QA1. 講師は大学の先生が多いが講師の選定はどのように行うのか?

- A. きらめき講座は、基本が1講座30回ないし15回の講座で、大学や専門的教育機関と同様のレベルを目指した講座としての位置づけ実施。講師の選定は大学教授や専門的知識をもつエキスパートを選定し依頼。新規講座の開設は受講生の意見、センター職員の意見、生涯学習推進委員のご意見を聞いて、開設。受講料は30回講座の、教養は18,000円、実技は30,000円を前納。返金なし。
- QA2. 講座の充足率(実受講数/定員数)が非常に高い。人気の講座を数多く 提供するノウハウは?
- A. 長年、講師を務めている方も多い。テーマを毎年変更してマンネリ化防止に取り組む。12月に翌年度のカリキュラムを提出を求め、センターでチェックをし、場合によっては変更もある。また、センターには同時に多くの教養講座を開設できる研修室、高度な設備を備えた技能系実習室が整備されているのも人気の秘密。
- QA3. 講座のテーマの決定方法? 市民ニーズ OR 講師の提案テーマ?
- A. 実施できる講座数には限りがあり、不開講が続いて講座を廃止し、新た に講座を立ち上げる場合に、センターで実施したい講座について検討を行 うとともに、受講生の方の意見も踏まえ生涯学習推進検討会議で報告し、

意見を聞いている。(R5 新規:北摂学 8 回に拡充/世界地図に描かれた日本 8 回→15 回)※空調工事のため、前期のみで実施

- 3年度 新規:初級ビジネス英会話 30回
- 2年度 新規:加齢に伴う身体機能の変化と健康の維持 30回
- QA4. 講師にフィードバックするための受講生評価はあるのか
- A. 不定期で受講生にアンケートを実施し、その結果を講師に渡し、講座運営に役立てる。また、受講応募数は講座の人気度を表しており、その内容が改善されない場合は不開講や講師登録の廃止もある。
- QA5. IT 学習室 (定員 30) では PC の運営管理をどのように行っているのか近年、スマホやタブレットでの講座要望が増えていると思うが
 - A. 運営管理におけるハード面の保守やソフト面の運用サポートは、企業に業務委託。SE が午前中をサポート。スマホやタブレット講座は、高齢者活動支援センター・シニアプラザ茨木(市指定管理者)に属する ICT アソシエーションがタブレット講座を高齢者施設で実施しており、当センターでも講師(器材持ち込み)として、講座運営を行っている。スマホ講座は年間2回実施でドコモ・ソフトバンク・KDDIに依頼し、講座を開講。
- QA. 事務手数料は徴取するのか➡講師への報償費はセンターで支払う。技能講座では約8割が受講料で2割は市が負担。教養講座では7割が受講料で3割は市が負担。
- QA. スタッフの事務量→冊子を作るのが一番大変。それと日程調整。
- QA. スタッフ体制→常駐 12 人 (正職 3 人)、市民ボランティアによるスタッフ制 (時給 1,000 円)、現在 61 名のボランティア、古参の市民が多い。
- QA. 新規講座は➡学びなおしの観点から夜学講座を開講。(ビジネス英会話講座、表現力を磨くための講座、情報メディア講座)
- QA. 講座を受けて資格を取ることもあるか→受講生は 60 代、70 代の方が主。 自分が学びたいという人が主。エキスパートになってそれを教えるという方 はいない。ボランティア講座では学習して地域で教える側になる人もいる。
- QA. 大学の生涯学習推進講座などと競合しないのか➡市内 6 大学でもそれぞれ 実施しているが、きらめき講座の講師は大学との連携ではなく、先生と直接 交渉し先生の合意を得て契約により実施。大学には知識の還元を市民にもし て欲しいと交渉し市民対象の講座を実施。これまで約 2000 人の受講生あり。
- QA. 講座の担当者は何人➡センターは3人。補助員は61名の市民ボランティア。
- 2. ボランティア講座に関する質疑応答
 - QB1. きらめき講座とボランティア講座の棲み分けは
 - A. ボランティア講座は自分が学んできた知識や習得した技能を他者に伝え たいがそのノウハウがないという方に、募集から当日のプログラムなどアド バイスをしながら、実施される講座で、年間6回まで。講座レベルとしては、 きらめき講座と比べると歴然とした差があるが、受講生もその講座を深く学ぶ

ためのきっかけづくりとしており、実費程度で受講ができ、入門用講座として の位置づけ。その後講師もサークルを立ち上げ、多くの方に教えるように成長 した講師もいる。

- QB2. ボランティア講師の募集方法は。
 - (市民が多い、きらめき講座講師につながる可能性は?)
- A. 広報による募集はしないが、講座の募集時にボランティア講座と記載して 実施することから、それを見た方がきらめきに問い合わせがあれば、面談し て講座が実行可能かを判断。きらめき講座の講師とはレベルが違う。
- QB. まちの先生と同じような講座か→はい。同様です。講師謝金はなし。6回連続講座が開催できるかが問題。同じ内容ばかりでなく変えていくことが必要だが、そば打ち教室などは2週おきに6回同様の講座を実施。ここでスキルアップや学習を得て生涯学習活動に参加する人も多い。センターでは放課後子供教室や学童保育室などでの活動も紹介。
- QB. 講座組み立ての指導はどのように➡講師希望者はシラバスを作成しセンターに提出。センターでは市民レベル相当であるか、時間配分等は適切か等のチェックをした上でヒヤリングを実施。場合によっては修正等を求める。これまでは希望者主導だが、今後はセンター主導で講師募集の方向へ。
- QB. 講座の担当者は何人➡センターは1人。補助員なし。
- 3. オンライン講座に関する質疑応答
 - QC1. 現状で閲覧できる講座数は、毎年の更新数は
 - A. きらめきで実施している講座をオンライン体験講座としてアップしている 講座は令和3年度は4種11回、今年度末に4種8回が加わり、8種19回の 講座を閲覧可能。次年度も7回の撮影を検討中、毎年充実していく予定。
 - QC2. オンライン講座を制作する契機は。講師からの依頼?市民からの要望? A. 令和2年度コロナ禍により休館になった。いつでも・どこでも・だれもが 学べる体制の構築が必要との考えから、社会人向けのスキルアップ講座や野 外活動への参加促進などの講座をオンライン化。当初はセンター職員が撮影、現在はプロに委託。
 - 4. 市民や市民活動団体の生涯学習活動への参画に関する質疑応答
 - QD1. センター登録団体は貴センターの事業にどのように参画するのか
 - A. 登録団体は73 団体、3月実施の「きらめきフェスタ」に26 団体が舞台出演・作品展示・体験講座の実施などを行い、センターの主催事業と共に1年間の活動発表の場。来館者に生涯学習への誘いを行っている。きらめき講座やボランティア講師なども体験講座を実施し、翌年度への活動の紹介につなげている。
 - QD2. きらめき講座等の修了者は、次の学びの活動にどのようにつながる? A. きらめき講座は、内容が高度でカリキュラムが毎年変る。長年受講者多い。

5年間のリピーター率は高く、1年で終了することは少ない。ボランティア 講座では講師と受講生がサークルに移行し、「きらめき」の施設を利用して 自分たちの活動に繋げている。

- QD.フェスタの主催者は➡行政だが各市民団体と協働して組み立てている。
- QD. J Aが参加している理由は➡マルシェ開催により注目を集めた。
- QD.他のフェスは→20 万レベルの茨木フェスティバル、10 万レベルの農業祭があり、これらも主体は行政だが各団体との協働により組み立てている。

5. その他

各講座などに対する質疑応答が終わった後、先方の提案により、スマホをもって館内を移動しながら各部屋などを紹介してくれた。コースは1F:工芸室→陶芸室(いばらき窯2つ)→アトリエ(手織物講座の最中)→フリースペース(只々広い)→EVで1Fから4Fへ

- 4F (講座専用のフロアー): IT 学習室→研修室→書道講座最中の研修室 (館内は、きらめき講座優先だが市民団体でも利用可能、有料)
- 総 括:今年の視察については、コロナ禍でもあることから、昨年同様中止も 考えたが、最近はオンラインによる会議等も頻繁に行えるようになった ことから、オンラインによる視察を試みた。

視察先については、オンラインによることから国内は何処でも選択可能になった。そこで、当会の主事業である「まちの先生」講座に類似した事業を展開している、大阪府茨木市を選択した。視察にこぎつけるまでは事務局に頼り、オンラインの設定等については渡部会長と佐藤広報部会長の協力によるところが大であった。

視察の方法については、事前に当方の訪問目的を伝えるとともに質問や疑問事項等を事前に通知しておき、当日説明を受ける形式であった。 また、説明を受けた内容についてはその都度再質問するといった、まるでリアルな視察と同様な会議を体験することができた。

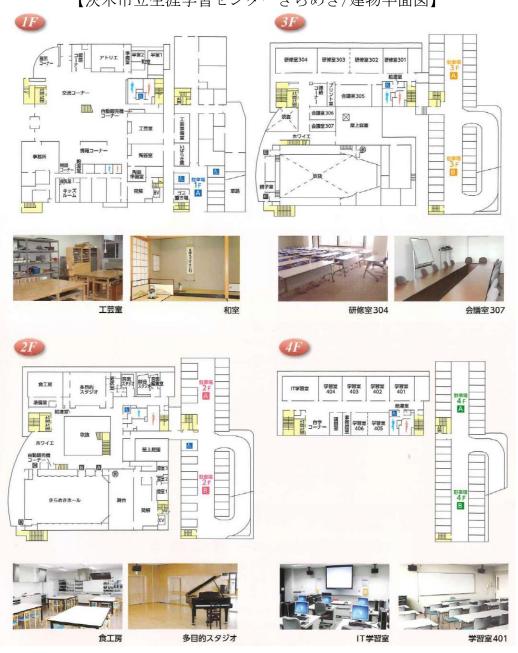
特に最後のスマホによる館内案内は、まるで現地で館内を巡っているような錯覚に陥った。このような対応により各教室を説明したり又は質問を受けたりすることが可能であることがわかり、オンラインによる視察研修の熟成度を認識させられた。

ただ、現地でしかわからない街の雰囲気や人々とのふれあいは経験できなかったことや、市民が何故あれほどまでの高額な資金を出して自分の学びを続けるのか、といった受講者側の声を聞くことができなかったことは今後の反省としたい。

≪視察研修≫ オンラインによる 初めての会議。 この会議模様は、 カメラで録音しま した。



【茨木市立生涯学習センターきらめき/建物平面図】



3. 収支決算と年間スケジュール

収支決算

2022年度(令和4年度) 入間市生涯学習をすすめる市民の会

汉 支

決

算

書

(収入) (単位:円)

科		目	予算額	決算額		説	明
補	助	金	760,000	760,000	市補助金		
繰	越	金	0	0			
諸	収	入	0	3	預金利子		
合		計	760,000	760,003			

(支出) (単位:円)

				· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·
科	目	予算額	決算額	説 明
		115,000	79,708	
総務費	事務費	105,000	79,708	消耗品、ロッカー借上げ代等
	印刷製本費	10,000	0	事業報告書用色上質紙
		640,000	300,127	
	企画講座	130,000	67,070	まちの先生講座用紙・送付費等
事業費	広報	250,000	122,090	生涯楽習通信・けいじばん等
尹未貝	フェスティバル	260,000	107,347	第27回生フェスオンライン開催委託料等
	視察研修	0	3,620	視察土産代等
	その他	0	0	
予備費		5,000	0	
合	計	760,000	379,835	

収入(円)760,003

支 出(円) 379,835

残 金 (円) 380,168

上記のとおり、報告いたします。

令和5年3月31日

入間市生涯学習をすすめる市民の会

会 長 渡部 直也

会 計 長崎 彩子

【監査報告】

令和4年度入間市生涯学習をすすめる市民の会収支決算について、さる 4月3日に関係諸帳簿 及び関係書類を審査した結果、いずれも適正であることを認め、報告いたします。

監事 幸森 康夫

監事 指田博行

年間スケジュール

2022年度(令和4年度)生涯学習をすすめる市民の会スケジュール

(予算 760,000円)	通年事業	4月	5月	6月	7月	8月
	定例会	定例会(4/19)	定例会(5/17)	定例会(6/21)	定例会(7/19)	お休み
	開催場所	市民活動センター	市民活動センター	市民活動センター	市民活動センター	00 1110
市民の会 全体	執行額			11-20/11/20 = 2	11-20/03/0 = 2	
(予算115,000円)	全体事業	Zoomプロ アカウント使用 料22.110円 イルミンロッカー代 2,000 円	Wi-Fiレンタル代 44,420円		消耗品(背幅伸縮 ファイル)1,764円 いるまなびとサイト年 間登録料金5,588円	
	執行額	24,110	44,420		7,352	
	79,708	24,110	44,420	0	7,352	0
	まちの先生講座		まちの先生講座参画 依頼通知送付費 3,780円	まちの先生講座連絡 会通知送付費 2,480円		まちの先生講座チラシ用 紙 10,383円 まちの先生講座送付用 角2封筒 1,602円、チラ シ郵送費 31,047円
企画·講座部会	執行額		3,780	2,480		43,032
(予算130,000円)	学びの仕組みづくり		まちの先生リスト作成・公共施設、窓口等で配布			
	執行額					
	他の課との連携推進(地域振興、商工観光、エコ・ケリーン政策課など)					
	執行額					
	67,070	0	3,780	2,480	0	43,032
	HPの充実					
広報部会						
조미제국						
(予算250,000円)	仲間を増やす	メルマガ「いるまなび とのWA!」配信(毎 月1日発行)				いるま学びの場印刷 代 88,110円
	執行額					88,110
	122,090	0	0	0	0	88,110
	実行委員会参画			実行委員会(6/30)	実行委員会(7/26)	
フェスティバルP						
(予算130,000円)	執行額 フェスティバル運営					
	執行額	***************************************				
	107,347	0	0	0	0	0
担密理核口	107,047	Ů				
視察研修P						
(予算130,000円)	執行額					
	3,620	0	0	0	0	0
マ						
予備費 5,000円	0					

9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
定例会(9/20)	定例会(10/18)	定例会(11/15)	定例会(12/20)	定例会(1/17)	定例会(2/21)	定例会(3/22wed)
市民活動センター	市民活動センター	市民活動センター	市民活動センター	市民活動センター	市民活動センター	市民活動センター
	まちの先生講座傷害 保険料手数料440円					消耗品(長3封筒 1,000枚入り) 3,386 円
	440					3,386
0	440	0	0	0	0	3,386
まちの先生講座用レター パック等郵送料8,444円	まちの先生講座開講 【10/4~2/21】				まちの先生講座終了 →	
8,444						
					まちの先生交流会開催 通知送付費 4,284円	まちの先生交流会 (3/2)欠席者資料送付 費 5,050円
					4,284	5,050
8,444	0	0	0	0	4,284	5,050
	生涯学習けいじばん				生涯楽習通信印刷	
	修繕費30,349円				費 3,631円	
	30,349				3,631	
0	30,349	0	0	0	3,631	0
実行委員会(9/6)実 行委員会(9/30)	実行委員会(10/20)	実行委員会(11/18)	市民の会のぼり 10,715円、スタッフジャ ンパー 8,132円	実行委員会(1/26)		
			18,847			
			第27回フェスティバ ル(12/4、12/11~ 1/15)	動画収録・編集業務 委託(入間CATV) 88,500円		
				88,500		
0	0	0	18,847	88,500	0	0
					大阪府茨木市オンラ イン視察(2/2) 土産代 2,300円 送付費 1,320円	
					3,620	
0	0	0	0	0	3,620	0

むすび

2022 (令和4) 年度は、コロナ禍3年目でしたが、入間市公共施設の感染防止ガイドラインに沿って、定例会、部会、実行委員会などは対面実施することができました。

第 27 回生涯学習フェスティバルは、3 年振りに産業文化センターでオンライン開催のオープニングイベントとして小規模実施することができました。市民が学びの場(活動団体やサークル)を知る場として今後のフェスティバルをどのようにしていくか。今回のハイブリッド型の実施形態は今後のイベント実施の一つの選択肢になり得るものでした。

まちの先生講座は 11 年目を迎えました。今年度は新たな試みとして、コマ数の多い拡張型/コラボ型の講座に絞りました。その結果、開講講座数、参加市民の総数が減少しましたが、コマ数が多い効果として終了後のサークル化率は例年より増加しました。これまで 11 年間培った経験を基に、今後のまちの先生講座の仕組みをさらに考える必要がありそうです。

私たち市民の会が直面している課題は、会員数の減少です。その原因は単に高齢化のみならず、活動の手段となるスマホ/SNS など情報環境の急速な進展への戸惑いも大きいと推察されます。今後、私たち市民の会に、若い世代の会員がどんどん加わって新たな発想で学びの仕組みを考えられないか。このために私たちは今、何をすべきか。新たな方向を模索することが求められます。

「いるまなびと」とは

「いるまなびと」は、「いるま」「まなび」「ひと」「ナビ」を合わせた造語です。個人・団体で活動している市民はもとより、生涯学習活動をしている家族や友人等を支えている市民も「いるまなびと」であると考えています。

現在、市民の会では、地域で仲間と学ぶ市民=「いるまなびと」として 位置づけ、「いるまなびと」を増やすために「まちの先生リスト」登録や 「いるまなびと」サイトの構築等、様々な展開をしています。



令和5年3月31日現在

委 員

青地 覧子 幸森 康夫

指田 博行 佐藤 享

関谷 敦子 土屋 修

長崎 彩子 山増 智子

渡部 直也

協力委員

今井 誠喜 岡野 こずえ 岡野 亘

栗原 正明 桑原 良博 小暮 欽作

須崎 隆司 人見 友章 望月 雅枝

問い合わせ先

入間市生涯学習をすすめる市民の会事務局 (入間市教育委員会 社会教育課)

〒 358-8511

入間市豊岡 1-16-1

Tel 04-2964-1111 内線 4122・4123